

石川漢詩

石川漢詩

病牀三首

病牀三首

病院の定期検診にて胃に異状ありとの御託宣、それより舊友花岡英彌君の千葉の病院にて手術することなれり。
爛漫の春に負おぼきて病牀二週間、得難き體驗をなせり。

○平成十四年三月二十三日作

其の一

早興扶内雨餘晨
遠就華陀治病身
羨見櫻花總州路
乃公從此負芳春

早に興ないき内ないに扶たすけらる雨餘うよの晨あした
遠く華陀くわだに就ついて病身を治をさむ
羨み見る櫻花總州の路
乃公だいこう此より芳春に負く

〔眞〕

雨餘うよ雨降りのあと。雨上がり。

内ない妻。

華陀くわだ後漢末の名醫。痲醉を發明し、全身痲醉の手術を行つたといふ。外科醫をたとへた。

總州そうしゅう今の千葉縣をいふ。

乃公だいこうわれ、わが輩。

其の二

養痾獨房臨縣城

痾を養ふ獨房は縣城に臨む

高樓櫛比路縱橫

高樓櫛比し路縱橫

病中慰眼有何物

病中眼を慰むる何物か有る

三面玻璃窗下櫻

三面玻璃の窗下の櫻

〔陽〕

養痾〓病氣を治療する。

櫛比〓くしの齒のやうに密に並ぶ。

破璃〓玉の名、水晶。ここはガラス窗をいふ。

其の三

燦燦春光方滿室

燦々たる春光方に室に滿つ

瓶花馥郁在牀臺

瓶花馥郁牀臺に在り

華陀帶笑迎吾處

華陀笑を帯びて吾を迎ふる處

小玉慇懃診脈來

小玉慇懃に脈を診り來る

〔灰〕

小玉〓楊貴妃の侍女の名。看護婦をたとへた。